

# 8 信州F・POWERプロジェクトについて

長野県 林務部

## 1 取組の目的

- 成熟しつつある森林資源を有効に活用することにより、利益を山側に還元することで、林業の再生と木材産業の振興を図る。
- 木質バイオマス発電施設の整備と発電施設から発生する熱の利用を通して、環境負荷の少ない循環型社会の形成に寄与する。

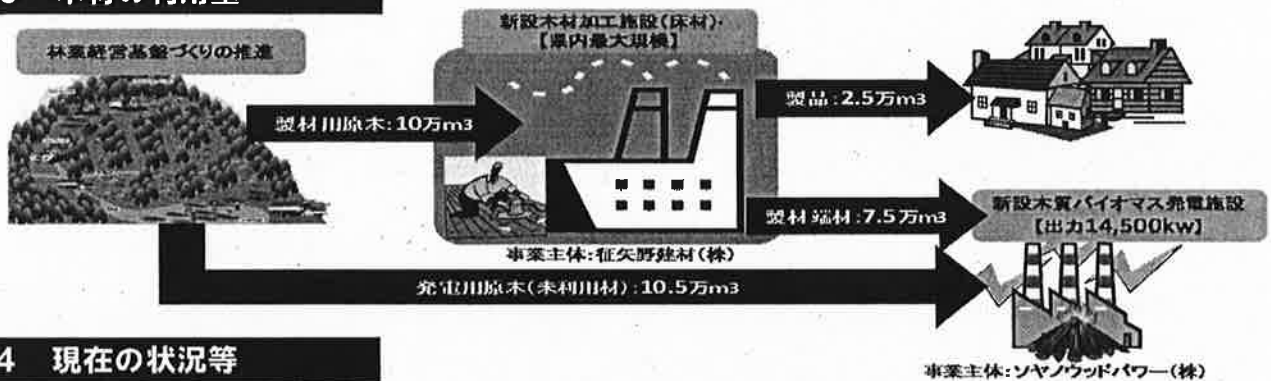
参考〈事業費〉(平成27.3月現在)	
木材加工施設	61億円 (補助金23.8億円)
発電施設	65億円 (補助金1.2億円)
合計	126億円 (補助金25億円)

## 2 全体スケジュール

〈平成29年4月現在〉

項目・年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30
用地造成						
木材加工施設		施設整備(工場製作含む)		試験稼働後 本格稼働		
木質バイオマス発電施設			資金計画・基本設計等調控		実施設計・設備製作・施設工事等	稼働
熱利用			施設整備計画検討		ペレット利用施設検討	
原木の安定供給体制	サプライチェーンセンターの設置				買付情報の一元管理・低コスト安定供給	

## 3 木材の利用量



## 4 現在の状況等

### (1) 木材加工施設について

製材加工等施設が平成27年3月末に完成し4月から本格稼働。機械・ライン調整も進み生産体制は確立。樹種や材長にもよるが1日あたり100~300m<sup>3</sup>が製材されている状況。

### (2) 木質バイオマス発電施設について

参加企業の出資及び金融機関の融資に係る最終調整等を経て、着手の予定。

### (3) 原木の安定供給について

サプライチェーンセンター(県内原木流通4団体)による製材用原木供給状況は、需給調整の結果、27年度は3万6千m<sup>3</sup>、28年度は約3万m<sup>3</sup>。発電用木材については、長野県知事が立会者となりサプライチェーンセンター4団体と征矢野建材(株)の間で、平成27年8月10日「発電用木材の安定供給に係わる意向書を締結(105千m<sup>3</sup>)」。平成29年度には納材管理・証明システムの開発を支援する等、木質バイオマス発電施設の稼働を見据えた低質材の安定供給体制を構築。

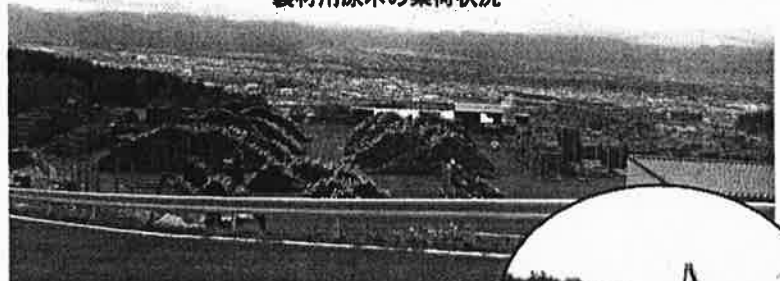
### (4) 熱利用について

塩尻市を中心に検討し、調査・分析の結果、発電プラントからの管路による地域熱供給は、需給バランスや整備コスト等課題が多い結論。その他の方策として製材加工時発生のおが粉の利用による方策を検討中。現在、木質ペレットの試験製造の実施や地域内の施設等での活用策を検討中。

ソヤノウッドパーク全景



製材用原木の集荷状況



## 5 期待される効果

- ・ 未利用樹種を床材等に活用する新たな産業創造、年間約4百人の雇用創出効果  
[雇用創出効果: 素材生産250人/年、素材運搬100人/年、工場65人/年]
- ・ 素材生産量20万m<sup>3</sup>の持続的な木材需要創出(山村の活性化)
- ・ 熱電併給(一般家庭約2万世帯分の消費電力、温熱活用の地域活性化モデル創造)
- ・ 需要側での牽引を通じ、長野県から新しい林業を創生(山村所得の向上)

